

あがの市民病院の藤森勝也院長(右)の案内で院内を回った地域医療現地研究会―阿賀野市岡山町



## 地域包括医療 実践に学ぶ

あがの市民病院

### 全国の関係者ら研究会

地域医療の現場から地域包括医療・ケアの実践や課題解決へのヒントを学ぼうと、阿賀野市のあがの市民病院で、全国の医療関係者らが参加する現地研究会が開かれた。市の中核病院として急性期から回復期、慢性期、在宅医療まで対応し、介護医療院を併設する病院内を視察した。

市町村が医師不足解消のために設置した公立病院などでつくる全国国民健康保険診療施設協議会やその県組織などが13日に主催。今年はオンラインを含め約150人が参加した。

参加者が所属する病院などは、医療に加えて健康づくりや介護、福祉サービスまでを総合的、一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の拠点を目指し、例年各病院などで現地研究会を開いている。

3班に分かれ、県協議会会長でもある同病院の藤森勝也院長(61)らが、在宅復帰を見据えてのリハビリや連携などに力を入れる地域包括ケア病棟など院内を案内した。スタンプそろいのTシャツを作ったり、バックヤードに研修医の訪問診療の様子といった活動記録、職員の表彰状を張った

りするなど、現場の士気を高める工夫も紹介された。黒字を維持していることなども解説した。

岩手県国保診療施設協議会会長で洋野町国民健康保険種市病院院長の磯崎一太さん(57)は、「職員のモチ

ベーションの高め方が素晴らしい。公立病院の黒字化は難しいので本当にすごい」と話した。

市水原保健センターも視察し、14日には新潟市中央区の朱鷺メッセで全体討議が行われた。